第 52 回 Society of Toxicology（SOT）学術年会派遣報告①
－ 教育コースへの参加 －

アステラス製薬株式会社　安全性研究所　大村　　功

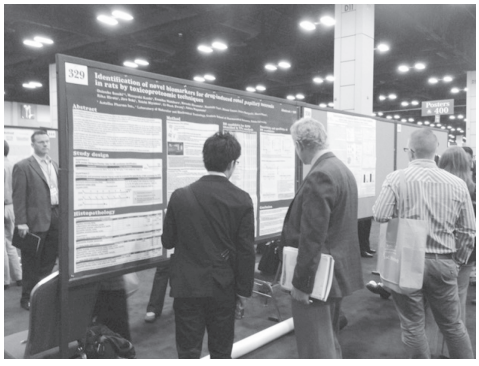
教育コース会場入口

日本毒性学会教育委員会が企画する米国毒性学会（SOT）教育コース派遣者としての機会に恵まれ，テキサス州サンアントニオの Henry B. Gonzalez Convention Center で開催された本年の SOT 学術年会（2013 年 3 月 11 日～ 14 日：年会，教育コース：10 日）に参加させていただいた。参加した教育コースは「Toxic Effects of Metals」及び「T4：Tools and Technologies in Translational Toxicology」であった。医薬品開発における毒性メカニズムの解析は業務として取り組んでいるが，金属毒性については教科書レベルの知識しか持ち合わせておらず，毒性発現メカニズム解明における Epigenetics やイメージングなど最新の知見を踏まえての説明は大変役に立った。Translational science のセッションは engineered liver model，high throughput screening，imaging，system biology という内容で，近年注目を集める知見をもとにした幅広い講義であった。金属毒性のセッションでは，各講師の講義内容が若干重複していたことが惜しまれたが，網羅的な講義をしようとすれば若干の重複は仕方がないのであろう。講義の詳細は別の機会に講習会という形で報告させていただきたい。

初めての経験であったが，近年普及が著しいスマートフォン及び iPad 向けの SOT アプリが事前に配布されていた。学会のプログラム・要旨集がまとめて入ったものであり，自分がチェックしたい発表・シンポジウムなどを検索し，カレンダー登録までできるもので，大いに活用した。紙の良さももちろん捨てがたいが，IT 技術を駆使し分厚い冊子を持ち歩く必要がない時代がやってきたのかもしれない。

最後に，SOT 参加という貴重な機会を与えていただいた日本毒性学会理事長　菅野純先生，教育委員会委員長　鍜冶利幸先生並びに事務局の皆様に心より感謝申し上げます。海外の学会に参加できるまたとない機会であり，多くの刺激を受けました。学会員の皆様もぜひ応募されることを望みます。

ToxExpo 及びポスター会場入口
（遥か彼方まで企業ブースとポスターが続く）



ポスターセッションの様子
（活発なディスカッションが行われていた。）